

GOKURAKUJI DAYORI
極楽寺だより
2024(令和6)年 6月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

夏法座のご案内

雨の季節には、仏さまの教えを聞き、静かにわが身をふりかえる「安居会」

「夏安居」という行事が、お釈迦さまの頃から伝わっています。

田植時期の疲れを、お法の水で流そうという、ゆかしい夏の法座です。

お誘いあわせ、お参りください。

六月十二日（水）

昼一時半 夜七時半

六月十三日（木）

昼一時半

講師 山口 蓮光寺住職

岡本達美 師

極楽寺ギャラリー

第三回 開催します！

詳細は、本号最終面に

वर्षामुपगच्छामः

5月19日の総代・世話人会議において、下記の通り 収支決算の承認をいただきましたので、ご報告致します。

2023（令和5）年度極楽寺門徒会収支決算書

2023年4月1日～2024年3月31日

	費目	金額(円)	摘要	
収 入	門徒会会費	1,081,000	今年度分 261戸 × 4,000円 内一件 1,000円 (野波瀬 101 / 在方 100 / 町外 60)	1,041,000
			前後納分 4戸	40,000
	本山教化助成金	2,100		
	貯金利息	17	8/21 8円 2/19 9円	
	前年度繰越金	1,715,320		
	合計	2,798,437		
支 出	負担金	402,842	本山賦課金	240,292
			山口教区費	127,950
			大津東組 組費	36,600
	研修会費	0		
	火災保険料	301,555	西部農業共済	91,200
		本堂 6,700万円	JA 共済	160,255
		庫裏 4,000万円	JF 共済	50,100
	会議費	60,000	5/8 総代・世話人会議	
	慶弔費	90,000	小林昭元世話人葬儀御仏前	10,000
			上田治男元世話人葬儀御仏前	10,000
			木村慎治元総代長葬儀御仏前	30,000
			西村一夫元世話人葬儀御仏前	10,000
			磯昭正元副総代長葬儀御仏前	30,000
	予備費	0		
	合計	856,397		
	差引残金	1,942,040	山口銀行普通預金	

2023（令和5）年度極楽寺門徒会 特別会計収支決算書

	費目	金額(円)	摘要	
収 入	前年度繰越金	2,729,166		
	利息	26	8/21 13円 2/19 13円	
	合計	2,729,192		
支出	支出	0		
	合計	2,729,192	山口銀行普通預金	

門徒会費 4,000 円の納入をお願いいたします。

三隅地区の方は世話人さんへ。

他地区の方は、直接お寺へ納入して下さい。



新総代就任について

森信和久さん（野波瀬）が、新しく総代となってくださいました。森信さん、なにとぞよろしくお願いいたします。



松野新会長



木村前会長

仏教婦人会会長交代について

8年間会長を勤めてくださった木村和恵さんが退任され、松野圭子さんが新しく会長に就任されました。木村さんには、副会長としてこれからもお世話になります。松野新会長、よろしくお願いいたします。

弔意

四十年の長きに渡り、極楽寺清光仏教婦人会の会長を勤めてくださいました、松野美津子さんがご往生されました。長い間、本当にお世話になりました。



三隅親鸞聖人鑽仰会法会

三隅地区の真宗寺院が持ち回りで勤める法座です

今年は極楽寺が引き受けです 9月14日(土) 15日(日)

両日とも午後一時三十分より(昼席のみ)



講師：本多静芳師

東京教区万行寺住職 東洋大学講師・東京仏教学院講師

どうぞ、ご予約ください

今年も「極楽寺Tシャツ」 受け付けます!

今年も、一枚1,000円のご懇志で受け付けます。カラーバリエーションも豊富!気軽にお申込みください。



月々の言葉

Monthly Words




6月の言葉

「我ら」と「彼ら」の線引きが

今年四月から、NHKで池上彰さんの司会による『時をかけるテレビ』今こそ見たい！この1本』という番組が始まりました。放送が始まって間もなく10年。これまでNHKが制作・放送してきた数多くの番組から、「今こそ見たい！」と厳選した名作を見直すことで、現代に通じるメッセージを読み解いていくというものです。



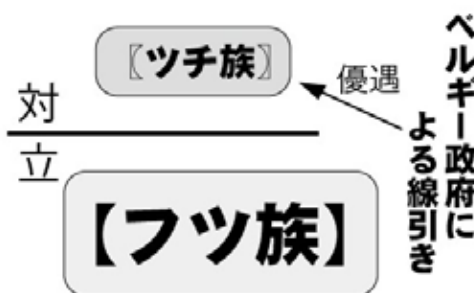
その第二回目で紹介されたのが、1994年にアフリカのルワンダで起きた大量虐殺についてのもドキュメンタリー『なぜ隣人を殺したか』ルワンダ虐殺と扇動ラジオ放送』（1998年放送）

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

でした。多数派の【フツ族】が少数派の【ツチ族】を襲った、アフリカの歴史上最悪ともいえるこの事件。かなりエグい内容ですが、まさに池上さんを始めた番組スタッフの、「今こそ、見なくてはならない」という思いが込められているように感じました。

ルワンダの主な民族は、多数派の【フツ族】と少数派の【ツチ族】です。元々対立はなく、一緒に暮らしていました。ところが、ルワンダを植民地にしたベルギーなどが、【ツチ族】を優遇して支配体制を作ったことから、両者に対立が生まれたのです。

そして1960年頃、それまでの政治体制が打倒され【フツ族】による政権が作られると、両者の立場が逆転します。【フツ族】の過激派が中心となった政府は、これまで恵まれた環境にあった【ツチ族】を弾圧。国外に亡命した【ツチ族】の人々は反政府組織を作り、軍事対立が起きました。



そんな緊張関係の中、大統領の乗った飛行機が撃墜されました。【フツ族】から強く支持され人気があった大統領が、暗殺

されたのです。「犯人は、『ツチ族』の過激派によるものだ」と
声が上がリ、対立は激化^{げきか}。最初は『ツチ族』反政府組織への怒
りの矛先が、いつの間にか『ツチ族』全体へと向き、ついには
虐殺へとつながったのです。

番組では、【フツ族】の青年フランソワを取り上げます。彼は
十七歳の時に、同じ村に住んでいた『ツチ族』の、十歳に満た
ない子どもたちを殺害しました。殺された子どもたち、実はフ
ランソワの姉の子どもだったのです。姉は、『ツチ族』の男性と
結婚していました。

政治的な対立はありま
したが、二つの民族間の
結婚は、ごく日常的に行
われていたのです。親戚
関係は当たり前。かつて

【フツ族】政府に よる線引き



あつたといわれる民族の身体的特徴も、すでに区別できないほ
ど深く結びついていました。しかし【フツ族】による政府は、「子
どもは父親の民族に属する」と法律で定め、身分証明書に民族
を記すことを徹底しました。とはいえ、それほど深い結びつき
があつたにも関わらず、なぜフランソワは甥や姪を殺してしま
ったのでしょうか。↓

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

虐殺を煽ったのは、ラジオでした。当時のルワンダにはテレ
ビ放送はなく、地方には新聞も届きません。国营ラジオは堅苦
しい放送ばかり。そんな時に作られたのが、新しい民間放送局
「千の丘ラジオ」です。流行の音楽にのせてディスクジョッキー
がしゃべるとい形式は、圧倒的な人気となり、またたくまに
人びとに受け入れられました。その「千の丘ラジオ」から、分
断と対立を煽るメッセージが送り続けられたのです。

「大統領を暗殺したのは、『ツチ族』過激派だ!」「隣の『ツチ
族』に、気をつけろ!」ラジオは、怒りと不安を煽り続けます。
実は「千の丘ラジオ」は、軍の上層部や一部の富裕層の、【フツ
族】過激派が作った局でした。

「奴らは、人殺しのゴキブリだ!」「今こそ、キミたちの勇氣
を示す時だ! ナタヤカマを持って立ち上がれ!」「オレたちの強
さを見せてやれ!」勇ましい言葉は熱狂を呼び、あつという間
にルワンダ全国に広まりました。各村に自警組織が作られ、「自
分たちを守るために『ツチ族』を殺す」という大義が叫ばれる。
憎しみや蔑みもまた伝染し、顔見知りだった隣人を、親戚や友
人を襲い、殺し始める。気がつけば、目を覆いたくなるような
光景が広がっていました。身分証明書に、【ツチ族】と示されて
いた。たったその違いだけで。その数は、大統領暗殺から一週

間で25万人にまで膨れ上がりました。

そして「オレたちの中に、敵をかばう者がいる。裏切り者は、同じ運命をたどる」という言葉も飛び交い、家族や親戚をかばうことも許されない空気が作り出されます。フランソワは、周囲から「子どもたちを殺せ！殺さないで、お前は裏切り者だ！」と追い詰められ、そして甥や姪を殺すことになったのです。

対立の始まりは、ベルギーの植民地政策による一本の分断線でした。そのラインが、共存していた二つの民族を分け、対立を生みました。そしてのちに、身分証明書に民族を記載するという法律で、もう一本の「我々」と「彼ら」を分ける線が引かれました。これまで普通に暮らしてきた人たちが、このラインに沿って、ある日を境に隣人を殺し始めたのです。

大量虐殺の防止を目的とするNPOジェノサイド・ウォッチの創設者であるグレゴリー・スタントンは、人々が虐殺に手を染めるまでの過程を八段階で説明しています。

① 人々を「我々」と「彼ら」に二分する

② 「我々」と「彼ら」に「こちら側」「あちら側」に相当する名前をつける

③ 「彼ら」を人間ではない存在(例えば動物や害虫、病気など)に位置付ける

④ 自分たちを組織化する。

⑤ 「我々」と「彼ら」の間の交わりを断つ

⑥ 攻撃に備える

⑦ 「彼ら」を絶滅させる

⑧ 証拠を隠滅して事実を否定する

しかし考えてみれば、①から③までは、私たちが日常的に行っているのではないですか。それらの積み重ねが、ある時ふとしたきっかけで、暴走していくのです。

これが遠いアフリカの国で起こった、私たちとは関係のない話であれば良いのですが、どうもそうはいかないようです。ナチスドイツのホロコースト、カンボジアのクメールルージュ(ポル・ポト派)、旧ユーゴ内戦の民族浄化。日本でも、関東大震災の際に起きた朝鮮人虐殺がありました。つまり、人類の歴史を振り返れば、同じような事件はいくらでも起こっているのです。そもそも『時をかけるテレビ』が、なぜこの番組を選び、放



送したのか。それは、インターネットやSNSが普及したことで、フェイクニュースやヘイトスピーチがまたたくまに広がる時代。分断が強まり、過激で勇ましい言葉で対立が煽られていく今だからこそ、この番組に学ばなくてはならないという危機感からではないでしょうか。事実2021年、アメリカ大統領選挙の結果を不服として、連邦議会議事堂が襲撃された事件は、陰謀論に煽られた影響が指摘されています。今年起こった能登半島の地震の際には「外国系の盗賊団が集結中だ」という、まさに不安や分断を煽るデマがSNSで広がりました。

人は優しいままに、残酷になれる

オウム真理教のドキュメンタリー「A」「A2」で知られる映画監督で作家の森達也さんは、撮影中あることに気がつきます。それは、撮影時に会ったオウム信者も、事件を起こした死刑囚たちも、みんな礼儀正しく、善良で心優しい人たちだったということです。でも彼らが多くの人の殺害に加担したことも確かなこと。だから森さんは、彼らと語り合いながら混乱します。そして、この矛盾に苦悩し煩悶しながら、ひとつの結論を見出しました。

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

アウシュビッツ強制収容所の所長を務めていたルドルフ・ヘスは、子煩悩で妻思いの男だった。本国ドイツから家族を呼び寄せて、収容所敷地内で仲睦まじく暮らしていた。空いた時間には子どもたちに勉強を教え、庭では妻と家庭菜園をやっていた。

しかし、そこから徒歩で数分の場所にはガス室があつて、多くのユダヤ人が毎日悶えながら死んでいった。良き夫であり良き父であるヘスは、ユダヤ人の側から見れば、これ以上ないほどに邪悪な悪魔でありモンスターだ。『虐殺のスイッチ 一人すら殺せない人が、なぜ多くの人を殺せるのか?』森達也)

これは森さんがたどり着いた結論を示す、エピソードの一つです。家庭思いで仕事熱心なルドルフ・ヘスは、その誠実さのゆえにユダヤ人を殺害するのです。そこには「我々」と「彼ら」の明確なラインがありました。ラインに、そして線引きをした組織に忠実なゆえにヘスは、ユダヤ人を処分されるべき存在として認識するようになったのです。

その時彼は、「私」という一人の人間としてではなく、「我々」というナチスの価値観や立場を優先していました。「私」という主語ではなく、「我々」として考えた。だから組織の論理が優

先され、「彼ら」の処分に、ためらいがなくなつてしまつたのである。心優しきままに。まさに、優しい「人」が、「人々」になることで残酷になる。それが森さんの結論です。

オウムの信者のほとんどが善良で穏やかで純粋であるように、ナチスドイツもイラクのバース党幹部も北朝鮮の特殊工作員たちも、きつと皆、同じように善良で優しい人たちなのだ。僕は確信しているということだ。でもそんな人たちが組織を作つたとき、何かが停止して何かが暴走する。その結果、優しく穏やかなままで彼らは限りなく残酷になれるのだ。でもこれは彼らだけの問題じゃない。共同体に帰属しないことには生きてゆけない人類が、宿命的に内在しているリスクなのだと思つている。つまり僕らにもそのリスクはある

『世界はもつと豊かだし人は優しい』森達也

こうして全体の一部となりながら、いつのまにか誰もが声高になる。虐殺や戦争はこうして起きる。でも渦中では、主語がないからこそ実感は薄い。誰もが終わつてから呆然と天を仰ぐ。振り返つてごらん。世界はそんな歴史を繰り返している

『世界が完全に思考停止する前に』森達也

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

それは、不祥事を起こした人をSNSやネットで叩く「炎上」行為も、虐めや差別も同様なのでしょう。その時の主語は、あくまでもその場の空気です。相手を、温もりや手触りのある生身の身体を持った人間として認識していれば、そこまで残酷にはなれません。「私」を主語にして考えれば、言動にはもつと責任が伴います。

「彼ら」と線引きし、「我々」という主語で語るからこそ、冷酷で残酷になれる。そしてひとつのきっかけさえあれば、誰もがその立場に成り得るのです。いやその可能性は、ネットやSNSの普及で、ますます高まっています。親鸞聖人が語られた「わがこころのよくてころさぬにはあらず。また害せじとおもふとも、百人千人をころすこともあるべし」「さるべき業縁のもよほさば、いかなるふるまひもすべし」『歎異抄』十三条という言葉が、リアルに響いてきます。

ともに凡夫

「仲間づくりは仲間外れづくり」という言葉を聞いたことがあります。私たちは仲間を作らなくては生きていけません。しかし、そこには同時に「我々」と「彼ら」という線が引かれ、必ず仲

間外れが生まれてしまう。でもそのラインはあくまでも、生きやすくするための仮のものだったはず。それをいつしか絶対視してしまうことが、分断や対立へとつながるのでしよう。

特に宗教は、篤信であるほどにそのラインを絶対視する傾向が強くなります。でも、阿弥陀様は本来「十方衆生（すべての生きとし生けるいのち）」と呼びかけられる仏様です。仏教の基本的な考え方である「縁起」は、無量無数の因と縁によつて、私がり立っているというもの。そして仏様の智慧は、ものごとを線引きせずに、ありのままに見るといふ「無分別智」といわれます。つまり悟りの世界には、本来線引きはありません。ラインは、迷いの存在である凡夫が仮に引いたもの。その自覚を忘れる時にラインは絶対視され、悲劇は起こるのでしよう。

以前、森達也さんとお会いした時、「この言葉知ってる？」と、たずねられました。それは、「われかならず聖なるにあらず、かれかならず愚かなるにあらず、ともにこれ凡夫ならくのみ」といふ聖徳太子の『憲法十七条』の一節でした。

「よく知っていますよ。親鸞聖人は、聖徳太子を「日本のお釈迦様」と仰がれ、とても尊敬されてきましたから」と答えると、「そうなの。この言葉つて、今こそとても大切にしないといけ

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

ないよね」と言われたのです。

私たちはいつも正しいわけでもないし、相手はいつも間違っているわけではありません。「我々」「彼ら」を超えた「ともに凡夫」という事実を、悟りの世界との出遇いを通して知らされるからこそ、立ち止まり、語り合う歩みが始まるのでしよう。生身の身体を持った、温もりと手触りのある「私」と「あなた」として。そんな営みが今こそ求められていると、私も深くうなずかされました。

※ 日本アカデミー賞にもノミネートされた森達也監督の映画『福田村事件』は、分断が不安に煽られることで対立へと変わり、「私」といふ主語を見失った「我々」が、優しいままに残酷になつていく姿が描かれています。四月よりレンタル開始。U・NEXTでも配信されています。

極楽寺だよりを送りませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺へお申し出ください。直接郵送します。



感謝！そしてプロの技に感嘆！



境内の椿の木を伐採していただきました



ご門徒の江本拓之さんに、境内正面階段横の椿の木を切っていただきました。

住職の子どもの頃からある古い木ですが、高くなりすぎており、常々小さくしたいと思っていたのです。ところが素人が切ると、間違いなく石垣下へ落下し、住宅の屋根を突き破ることは目に見えています。どうしたものかと思っていたところ、森林組合に勤務している江本さんがあっさり

切っていただきました。その手際の良さに「さすがプロフェッショナル!」と、感嘆しながら見ておりました。



鐘楼の撞木のロープを取り替えていただきました



かねつ 鐘撞きの撞木を支えるロープを、大田宇三郎さん・岩本国久さん・白井正良さん・松本和也さんに、取り替えていただきました。皆さん、当たり前のようにされていましたが、やっぱり漁師のロープワークは凄い！やっぱりプロは違うなあと、感嘆しました。ところで、実はこのメンバー。四人中三人の自宅は、鐘楼のすぐ近く。都会の方では「鐘の音がうるさい」と怒る人がいるそうですが、こちらでは近所の方が、「きれいに鳴るように」と力を尽くしてくださいます。心豊かな生き方は、どちらなのでしょう。田舎には、都会にはない大切なものがたくさんあることも知らされました。



7月の言葉

いよいよ夏休み！しかし楽しい日々は、あつという間に終わります。「明日からやろう」と先のばしをしているうちに、気がつけば残されたわずかな日数と大量の宿題……。こんな経験、誰でもあるのではないのでしょうか。

それは、子ども時代に限りません。何より、今は娯楽の多い時代です。スマホゲームのCMには、やたらと「暇つぶしに最高！」とありますが、暇をつぶしているうちに時が過ぎ、気がつけば人生全部が暇つぶしで終わってしまったなら……。あまりにも寂しすぎます。

同時にそれは、日々の忙しさに追われている私の生き方にも、言えるのではないかと思うのです。「忙」という漢字は、「忄(りっしんべん)」と「亡くす」という字で構成されています。「忄」とは「心」の字形から転じた偏ですから、

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

まさに「心を亡くす」ことに通じます。また、「心」を「亡」の下につけると、「忘」という字になります。まさに、忙しさのあまり心を亡くし、大切なことを忘れながら、日々を送っている私を表しているかのようです。日々の出会いを大切にしているのか。ささやかなことに驚き、小さな喜びに感動し、ただだいているご恩に感謝する。そんな、人生を深く味わい豊かにしていく営みを、後回しにしてはいないかと。



何より私たちは、夏休みの宿題よりも大きな、人生の宿題を抱えています。それが老病死です。仏法では、地位や名誉や財産をどんなに積み重ねても、いずれは手放さなくてはならないと教えます。なぜなら、必ず老い、病み、死んでいかななくてはならないから。厳しいけれども、それが私たちの現実なのだ。

その現実を前提にした上で、日々の生活を営んでいるかと問われると、どうなのでしょう。誰もが老い病むことは、頭ではわかっているのです。ところが巷では、「いつまで

も若々しく「やっぱり健康が一番」という言葉ばかりが飛び交っています。それらは裏返せば、「老いたら終わり」「病気になるたらダメ」と将来の自分を蔑む言葉なのに。年若いでも、病気になるっても、私にとつてはかけがえのない大切な人生の一日であるはず。にもかかわらず若さや健康に執着し、大切な一日を空しいものにする。そんな生き方をしてはいいのでしょうか。

そして、私たちには死という大きな大きな問題があるので。近頃は、「人間死んだら終わり」という人が増えましたが、それは「死んだら終わるようなものしか、追いかけていない私である」と宣言しているようなもの。これもまた、空しさを感じます。

また、「どうせ死ぬんだから、好きなことをやろう」という人もいます。これもまた乱暴すぎる話です。そもそも「どうせ」という言葉には、やぶれかぶれや自暴自棄な気持ち、「どうにでもなれ」と望みを失った感情が含まれています。それは結局、死というものにきちんと向き合えていない態度に思えるのですが。

詩人の相田みつをさんに「そのうち」という詩があります

す。

そのうち お金がたまったら

そのうち 家でも建てたら

そのうち 子供から手が放れたら

そのうち 仕事が落ちついたら

そのうち 時間のゆとりができたら

そのうち…そのうち…そのうち… と、

できない理由をくりかえしているうちに

結局は何もやらなかった

空しい人生の幕がおりて

顔の上に 淋しい墓標が立つ

そのうちそのうち 日が暮れる

いまきたこの道かえれない



「そのうちそのうち」と、人生の宿題から目を逸らした生き方は、「空しい人生」になりかねません。老い、病み、死んでいく現実を抱えた私の人生を、それでも尊いものとしていただくことができるにはどうすれば良いのか。実は、そんな人生の宿題に向き合ってきた人たちの歩みが、深く、

刻み込まれた場所があります。それがお寺です。

生涯を学校教育に捧げられた、東井義雄という先生がおられます。同時に浄土真宗のお寺の住職で、阿弥陀様のお心を味わいながら、阿弥陀様と共に人生を歩まれた方でした。その東井先生には、苦難の時期がありました。将来を囑望された息子さんが突然意識不明となられ、またご自分も癌にかかれたのです。執筆も多く、名前の知られた方でしたから、様々な人たちから「罰が当たったのだ。私のご宗旨に変わられてはどうか」「御祈禱されては」「あなたの因縁を見てもらっては」とアドバイスが寄せられました。その時先生は、すべてのアドバイスを丁寧にお断りされ、このように言われたそうです。

「如来さまは／私たちに「生きてよし、死してよし、どことてもみ手のまんなか」の世界を、お恵みくださるのです」(『仏の声を聞く』東井義雄)

この言葉、凄くないですか。私は、シビれました。人生の苦難の中で、その事実を受け容れ、語られた言葉です。老病死と向き合い、生と向き合いながら、人生を尊いものとして歩める道がここにある。その確かさが、この一言に込めら

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

れているようで、本当に感動しました。

そんな先人たちの歩みを学び、人生の宿題と向き合う場として、お寺があるのです。

「世界にお布施を」を合言葉に、宗派を超えた仏教僧侶が集まり、世界の平和と人権に関わる問題に取り組む国際協力NGO「アーユス」という団体が、東京にあります。

その事務所は、有名な庭園の向い。そこへの行き帰りの人たちに、自由に持っていつでももらえるようにと、パンフレットや冊子が事務所の外に置いてあります。

ある日のこと。男女四人位のグループが冊子を取り、話している声が事務所の中に聞こえてきました。

「えーっ何これ、『フリースタイルの僧侶たち』だつて」

「へー、そんなのあるんだね、一部もらつてく」

「うん、ちょうだい」

それを手にし、特集記事を見て

「うわっ何これ、『お寺に行こう』だつて！」

「あはは、やだよー、やだよだ、お寺に行こうなんて」

と冊子をラックに戻して立ち去って行きました。その笑っていた男女はいずれも間違はなく、七十歳を超えていたそ

うです…。

「そのうちそのうち」と言いながら、一体いつになったら向き合うのやら。いや、その人たちを笑っているのではないのです。私もお寺に生まれて住職じゆうしよくになってなかったら、きっと同じようなもの。そんな私であることを気づかされ、そんな私のためにこそ阿弥陀様ははたらいてくださっているのだと、教えられ、育てられているのです。

お寺って、やっぱり凄い場所だと思います。ぜひ、誘い合わせてお参りください。人生の宿題を解決するために



極楽寺
ホームページ

極楽寺.comで検索
又はQRコードから



物でお布施 mono de ofuse

≡家庭で眠っている物を、周りの人のために、活かしませんか。下記の物があれば、お寺までお持ちください。

書き損じはがき・未使用切手・未使用テレホンカード・商品券やビール券など金券・CD・DVD・ゲームソフト・ゲーム機器など。

未使用タオルやバザー一品となるようなものも、受け付けています！



プルトップも、
集めています！

本堂正面から入って右手奥に、回収箱を用意しています。

能登半島地震の募金箱を本堂に設置しています
ご協力よろしくお願いします。



「なぜ、こんなに打てないんだ！」と思わず叫びたくなるような今年のカーブ。しかし、新井監督が辛抱強く選手を起用した結果が、ようやく見えてきたようです。私たちファンは目先の結果を求めがちですが、選手を信頼し、我慢し、経験させていくのは、なかなか出来るものではありません。新井監督、ガンバレ！私はあなたを我慢しながら、信頼し続けます！（とは言っても、溜息と愚痴は止められないのですが）。



第39回児童念仏奉仕団のご案内

Oshirase

大津東組（長門・三隅地区の浄土真宗寺院）では、夏休みを利用して小学三年生から中学一年生を対象に、ご本山参りを企画しております。是非、ご参加のお呼びかけをお願いします。

- ◆ 期 日 2024(令和6)年7月30日(火)～8月1日(木)二泊三日
本願寺参拝 大阪ユニバーサルスタジオジャパン
- ◆ 対 象 小学三年生～中学一年生
- ◆ 参加費 47,000円(中学生は、58,000円)
帰敬式・記念写真代を含みます。
- ◆ 申込み 6月20日までに極楽寺へ ※ 詳細は、お寺へおたずねください。



住職からの
お願いです

引き続き、今回も・・・

夜の法座に、お参りください



□ GWに還暦かんれきの同窓会がありました。気づけば私も、いよいよ六十歳の舞台。久しぶりの再会に楽しい時間を過ごしながら、「みんな、オジさんオバさんになったなあ」と思いつつ、「ああ、オレも同じように歳を重ねたんだ」と感慨かんがいぶか深く味わっておりました。□ さて、長らく同窓会に出ていなかった同級生の、こんな言葉が印象に残っています。「私のことを覚えておぼてくれているだろうか」と心配していたけれど、覚えてい

てくれて嬉しかった!」。うんうん。その不安な気持ち、よくわかります。久しぶりって、緊張しますよね。そして、その後さらに続けた言葉が、更に印象的でした。「でも、私は何人が覚えていない人がいて、申し訳なかったです…。うんうん。人のことを思う前に、まず自分はどうなのか。それを考えなくては、失礼なことになりかねませんよね。大切なことだと、私も肝きもに銘めいじた次第です。□ ところで、今号の「6月の言葉」は文章もかなり長く、内容もヘビーなものになってしまいました。敬遠けいえんされる方も多いのではと心配しています。ただ、池上彰さんたちの思いには共感しますし、何より私たちにとって他人事たじんじではない問題だと思っているので、つつい入れ込んで書いてしまった次第です。□ 心療内科医の海原純子さんは、人にはヨコ型思考しこうとタテ型思考があると言われています。ヨコ型思考とは、違う時代の、見知らぬ国の、知らない人々の話を聞いて、人間としての共通項きょうつうこうを見つけ、今に生きる自分に当てはめて何かを感じ取る思考のこと。人のエピソードを、ヨコにスライドさせるように、自分へと置き換える考え方です。それに対してタテ型とは、人は人、自分は自分、今は今、昔は昔とタテ割りたてわりで考えること。そして近頃は、そんなタテ型思考の人が、増えているのだそうです。□ 「人の振り見て我が振り直せ」「他山の石たざん いし」など、他者のふるまいを通して、自分を振り返ることの大切さを教えられる言葉は、昔から数多くあります。それを口にしたり、聞いたりしていても、実際に生かすのは難しい…。せめて「まず自分はどうなのか」と、ヨコ型思考しゅうかんの習慣を身につけなければ。そんなことを考えている還暦前の私です。(住職)

極楽寺で SNS 活用講座が開催されました



5月18日、極楽寺でSNS活用講座が開催されました。「NPO法人つなぐ（長門しごとセンター）」が毎年開催しているこの講座は、SNSを活用した日々の情報発信には欠かせない「写真」を磨く企画です。今年も「風景写真編」として、極楽寺と野波瀬を会場に行われました。天候にも恵まれ、田中輝さん（デザイン事務所「かなたデザイン」）を講師に、参加者が「伝わる写真」を学び、撮影しました。



それを受けて…

第3回 極楽寺ギャラリー開催します！ 今回は写真展です

SNS活用講座で撮影された写真を、展示します。
極楽寺や野波瀬の魅力がどのように引き出されたのか。

どうぞ、楽しみにしてください！

次回法座の予定

盆法座 8月15日（木）朝9時より

法座の後に、「平和を願う鐘」をつきます。どなたでもどうぞ。

紙面の関係で、「オシエノカケラ」「お寺のギョーカイヨーゴ」はお休みです。